

令和2年度 公立大学法人 公立小松大学の取組みと業務運営の評価



令和3年8月

小松市公立大学法人評価委員会
Komatsu City University Evaluation Committee



contents

はじめに		03
I 全体評価	総評	04
II 項目別評価		
(1) 教育・研究編	① 教育	05
	② 研究	07
	③ 国際交流	09
(2) 地域貢献編	① 地域貢献	11
(3) 法人経営編	① 業務運営	13
	② 財務	14
	③ 自己点検・評価/広報	15
	④ 施設・設備	16
	⑤ その他	16
III 資料		
(1) 公立小松大学の情報		17
	基本理念・教育理念/大学の学部・学科構成/組織図	
(2) 評価		19
	評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準	
(3) 用語解説		21
キャンパスマップ		22

公立小松大学校歌 光より速きわれら

なかにし 礼 作詩
千住 明 作曲

見よ 白山の頂を
若き 飛躍の舞台なり
学びの時を 愉しく修め
いざ羽ばたかん 自由の翼
世界は広し ならばなお
翔びゆけわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

海 永遠の時を打つ
若き 希望も無限なり
果てなき空に ゆるがぬ意志で
描け七色の 調和の虹を
理想は遠し ならばなお
挑めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

この命こそ 奇跡なり
汝 自身を 知りつくせ
高みに上り 高みを越えて
いざ身に浴びん 叡智の景色
真理は深し ならばなお
極めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学



は じ め に

昨年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるい、社会経済活動が一変しました。全国の大学でも対面授業が制限され、オンライン中心の教育対応となり、学生の皆さんの学業や生活、そして健康について心配していたところです。公立小松大学では徹底した感染症対策の下、後期より原則対面授業を再開しており、対面とリモートとのハイブリッド方式が構築されたことは、教育の持続性が高まったものと喜んでます。

さて、令和3年度は4学年が揃い、来春には卒業生を社会に送り出す重要な年となります。開学来これまで順調に大学運営や学生確保に努めてきたこと、また、令和6年に新幹線が開業する小松駅周辺に整備予定の複合ビルにキャンパスを拡充し、教育・研究環境をさらに向上していくことなど、積極的に大学の価値を高める取り組みを進めていることについて、大いに評価できるものだと考えます。今後、企業との連携強化はもとより、現在進行中の大学院開学計画を着実に進め、学生の進路確保と就職支援に全力で取り組むことを強く願っています。市民の皆さんや地域社会から真の評価を受けることとなる大変重要な時期であり、大学法人の一層の取り組みをご祈念いたします。

小松市公立大学法人評価委員会 委員長

小松市公立大学法人評価委員会 委員

項目	氏名	所属 職名
委員長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	金沢大学 監事
委員	まつざわ てるお 松澤 照男	北陸先端科学技術大学院大学 名誉教授
委員	なかやま けんいち 中山 賢一	小松マテーレ株式会社 代表取締役会長
委員	あきやま のりこ 秋山 典子	医療法人社団 澄鈴会 理事長
委員	かわみなみ えみ 河南 恵美	河南恵美税理士事務所 代表

※小松市公立大学法人評価委員会条例により設置する市長の附属機関。法人の運営に関し、第三者の視点から評価を行う。

公立小松大学 中央キャンパス



全体
評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

令和2年度の公立大学法人公立小松大学の業務実績は、全体として中期目標・中期計画の達成に向け順調に進んでいると評価できる。

開学3年目となる令和2年度は、世界的な新型コロナウイルスによるパンデミックにより大学の教育研究活動が大きく脅かされた中で、理事長及び学長の指導のもと、全教職員が一丸となり、さらに学生の理解と協力もあり、前年度に引き続き教育研究に大きな成果をあげたことは高く評価できる。特に、早い段階で新生も含むオンライン講義の確立と対面授業の再開、さらには実験・実習の新たな取り組みを展開したこと、また公衆衛生面での空気清浄機の全教室整備など、困難な状況下にあっても教育環境づくりを進め、最小限の陽性者に抑えたことは特筆される。

一方、感染症拡大防止として地域連携や学校開放等における活動、教育面においても国際交流が制限されてきた。今後、ワクチン接種が進み、新しい形で大学と地域との交流や国際交流が深まっていくことを期待したい。

教育面では各学科の実践的な専門科目が本格化する中、積極的なインターンシップを展開するとともに、研究面では科学研究費や外部資金獲得実績も目標を大きく上回るなど、継続的な取り組みを評価したい。留学等による国際交流の拡大に向け、コロナ禍のなか、新たに海外大学との協定を提携したことは、アフターコロナ時代の国際教育拡充に通じるものであり、これも評価できるものである。

来春は本学からはじめて学生を社会へ送り出す重要な年となる。不透明な社会経済情勢ではあるが、これからの大学の未来を左右する大切な時期であるとの認識を一層強めてもらい、計画中の大学院の開学をはじめ、学生の進路実現、教育研究や国際交流、地域貢献のさらなる充実など、地域や社会から必要とされる大学として発展されることを期待したい。

項目別評価

項目	評価結果	評価基準
(1) 教育・研究	① 教育 A 順調	S 特筆すべき進行状況
	② 研究 A 順調	A 順調
	③ 国際交流 B 概ね順調	B 概ね順調
(2) 地域貢献	① 地域貢献 B 概ね順調	C 要改善
(3) 法人経営	① 業務運営 B 概ね順調	D 要抜本的改善
	② 財務 A 順調	
	③ 自己点検評価・広報 A 順調	
	④ 施設・設備 A 順調	
	⑤ その他 A 順調	

評価 | A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 実践的能力を涵養するため、多数の実験・実習科目を実施した。一部の学外実習において、コロナ禍により学内への変更を余儀なくされたが、実地で働く専門家を講師に招くなどして臨場感のある講義を実施した。
- 全授業で学生に授業評価アンケートを実施したところ、5段階評価で昨年度と同等以上の平均4.2と、高い評価を得た。
- 志願者確保については大学案内動画や360度カメラを用いた3キャンパス構内の紹介などオンラインによる情報発信に力を入れ、2021年度の志願者倍率は7.8と高倍率であった。
- 新型コロナウイルスに係る学生支援については、公認心理師による学生相談体制の強化などメンタルケアの充実や大学独自の貸付金制度の創設による経済的支援、オゾン発生器やサーモグラフィ体温測定器の設置によるハード整備など、多角的なバックアップを実施した。
- キャリアサポートセンターでは、各学科の就職担当教員と連携し、個別進路相談の実施やキャリア支援講座の開催など、特に3年生に対する具体的対策を進めた。また、学生の志望と就職活動の実態、企業の求人情報を一元的体系的経時的に把握するシステムとして「キャリアタスUC」を導入した。

全日本中国語スピーチコンテスト (10/10)

長野県日中友好協会ラジオ孔子学堂主催の「第38回中国語スピーチコンテスト長野県大会」が長野教育会館で開催され、国際文化交流学部がスピーチ部門で優勝した。



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ コロナ禍においても、オンラインを早期活用するなどして途切れない学習機会を提供し、授業評価アンケートにおいても前年度より高い満足度を示した点は大いに評価できる。
- ◎ ウィズコロナ・アフターコロナにおける実習の在り方をよく検討する必要がある。
- ◎ コロナ禍において、経済面も含むサポートにより退学者を最低限に抑えた点は評価できる。
- ◎ きめ細やかな学生支援と相談体制がとれており、今後も積極的なサポートを期待する。
- ◎ 就職支援については十分なサポートをしており、評価できる。コロナ禍の影響や社会が求める人材像をしっかりと見据え、今後も積極的なサポートを期待する。

江蘇杯中国語スピーチコンテスト (12/12)

第6回江蘇杯中国語スピーチコンテストがオンラインで開催。中上級班スピーチ部門で国際文化交流学部の学生2名が、最優秀賞の特等賞および中華人民共和国駐名古屋総領事賞、一等賞を受賞した。



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R2年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R2目標値	実績	備考
志願倍率	志願者数 ／募集定員	最終年度	2倍以上	—	[5.5倍]	令和2年 5.5(一般6.5、特別2.6) 令和3年 7.8(一般9.6、特別2.5)
学生の満足度	5段階評価 (平均値)	毎年度	3.3	3.3	4.2	前期 4.21 後期 4.19
市民公開講座 開講数	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10／年	—	[12]	市民大学 12 資格取得支援講座 0 その他授業 0
	教員参画数 ／年	完成年度以降	20人／年	—	[延べ28人]	
市民による 施設利用度	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	211件	中央 52件 粟津 159件 未広 0件
インターンシップ 参加者数	参加者数／年	毎年度 (3年目以降)	200人	200人	延べ165人	「学外技術体験実習」(生産) 74人 「インターンシップ」(国際) 54人 その他 37人



就職活動丸ごと体験実践型セミナー (10/24)

3年生を対象に、学生によるインターンシップ報告や個人面接・グループディスカッション練習を行った

インターンシップ (国際文化交流学科)

夏休み期間中、市内の企業や団体、行政等で約5日間の実地研修を実施。関係機関の理解と協力のもと、対面での実施にこぎつけた。



評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

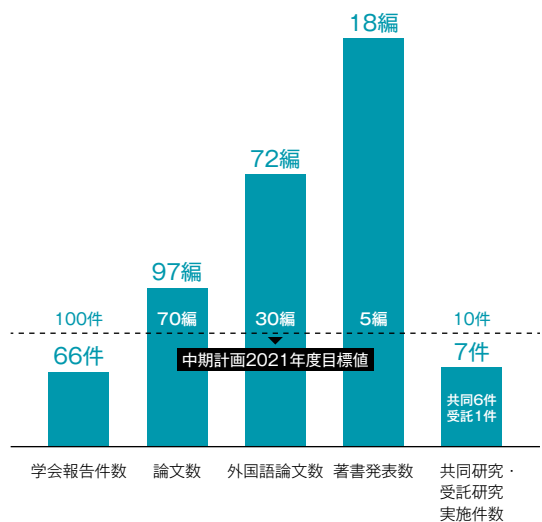
- 学内独自の研究支援制度や予算を設け、特色ある研究や地域の問題解決に向けた研究の推進、学科単位での研究力向上を図った。
- 学部横断的な研究の推進を図るため、学内交流会「Salon de K」を開催した。
- 本格的な実験・実習の開始や研究活動にあたり、薬品管理マニュアル・毒劇物管理マニュアルを制定し、これを運用した。また、産業医の職場巡視と合わせて薬品管理状況の確認を実施した。
- 学外からの研究助成や産官学連携に係る情報を効率的に各教員に周知するため、Microsoft365 SharePointを活用し、学内向けに情報公開用サイト「研究助成・産官学連携情報」を開設した。
- 新型コロナウイルスをテーマに「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」をオンラインで開催し、研究力を発信するとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。
- 半年に1度教員の研究業績の取りまとめを行い、学会報告、学術論文、著書いずれも中期計画目標値を上回っている。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 論文発表数等の研究実績は昨年度よりも高く、コロナ禍においても研究活動を停滞させなかった点は評価できる。
- ◎ 科学研究費及びその他の外部資金はどちらも昨年度より採択件数が増えており、大学として積極的に外部資金の獲得に向け取組を行っている点は評価できる。
- ◎ 科学研究費の獲得実績は重要な指標である。今後も積極的な獲得を図られたい。



情報公開用学内サイト「研究助成・産官学連携情報」



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R2年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R2目標値	実績	備考
学会報告件数	報告件数/年	完成年度以降	100件	—	[66件]	
論文・著書数	論文数/年	完成年度以降	70編	—	[97編]	
	英語・その他の外国語論文数/年	完成年度以降	30編	—	[72編]	
	著書発表数/年	完成年度以降	5編	—	[18編]	
共同研究・受託研究数	実施件数/年	完成年度以降	10件	—	[7件]	共同研究 6件 受託研究 1件
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数/年	完成年度以降	15件	—	[36件]	新規 16件 継続 20件
	その他外部研究資金採択件数/年	完成年度以降	5件	—	[17件]	

シーズ・ニーズマッチングシンポジウム (11/28 オンライン開催)

「新型コロナウイルス — これからの世界と地域」をテーマに4学科の教員がそれぞれ、流体力学、感染予防学、臨床工学、国際社会 (中東) の研究に基づき発表を行った。



令和2年度 公立小松大学 シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

新型コロナウイルス
これからの世界と地域

300以上の国を越え、急速に人種と世界には新しい国境が要求されています。自動車部品メーカー、足りない人工呼吸器を急ぎ作った企業の報告も行われました。公立小松大学にも関連する研究シーズがあります。それが、地域の皆さんと共に取り組めることがあれば大幸です。

2020年 日時 **11月28日 土 14:00-16:00**
ZoomWebinar / 参加無料

4学科の教員による研究シーズの発表 (各15分)、地域連携推進センターの活動報告 など

「ウイルスの流体力学」
川端 信義 (生産システム科学科教授)

「新型コロナウイルスと世界情勢」
千葉 悠志 (国際文化学部学長)

「COVID-19と呼吸管理」
深澤 伸慈 (臨床工学科教授)

「新型コロナウイルスと感染防止」
内田 美保 (看護学科教授)

参加申込は Webで!

お問い合わせ
公立小松大学 地域連携推進センター
Email: community@shomatsu.ac.jp
小松市上原町10-10 (中央キャンパス)

評価

B 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 新たに大学間交流協定1件、部局間交流協定1件を締結した。

※累計では15件

(大学間：9件、部局間：5件、その他機関：1件)

<新たな協定の締結>

- ◎ 大学間交流協定
 - * ハサヌディン大学 (インドネシア)
- ◎ 部局間交流協定
 - * ナレスワン大学社会科学部 (タイ)

- 中国や台湾などの協定校との短期及び長期の交換留学等を実施した。

※新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、長期留学は1人派遣、新たな受入はすべて中止となった。短期留学(派遣)はオンラインで実施した。

- 国立研究開発法人科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」採択事業として、生産システム科学部において部局間交流協定先のモンクット王立工科大学トンブリー校(タイ)とオンライン交流会を実施した。

- 国際情勢について学ぶ「こまつ市民大学」の開講、「英会話カフェ」の開催など、小松市や小松市国際交流協会等と連携し、地域の国際活動を支援した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎コロナ禍においても交流協定締結やオンライン等を活用した短期留学など、積極的に新しい形での国際交流をしている点は評価できる。

- ◎オンラインを積極利用したことで、逆に海外との交流がとりやすくなった側面もあり、結果として短期留学派遣人数が増えた点は評価できる。今後も国際交流の最初のステップとしてオンラインを上手く取り入れることを期待する。

- ◎コロナの状況をよく踏まえ、積極的な国際交流を図られたい。

オンライン交流会(モンクット王立工科大学)(3/1)

タイのモンクット王立工科大学の学生・教員に生産システム科学部の紹介や、南加賀地域の産業や本学教員の研究内容に関するセミナーを行い、交流を深めた。

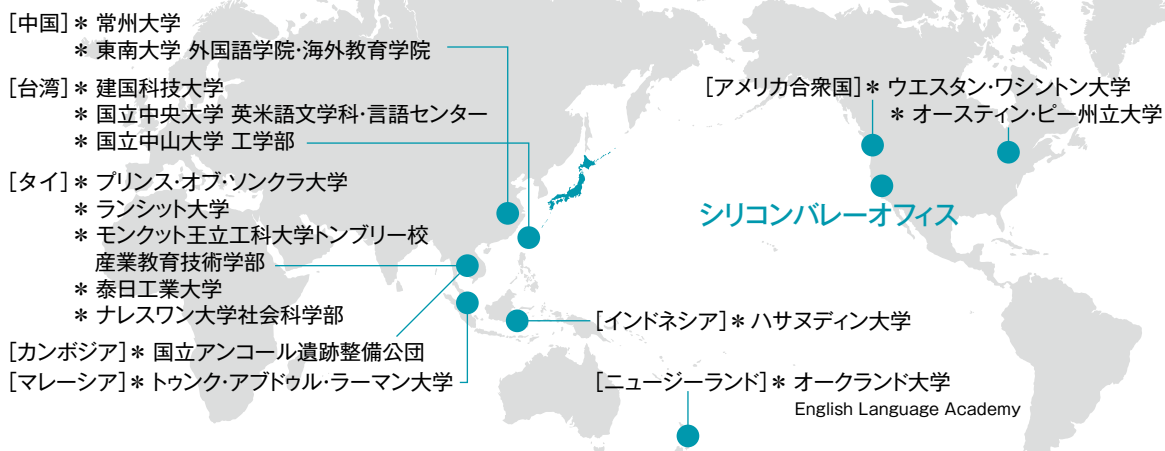


数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R2年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R2目標値	実績	備考
留学生受入・派遣数	受入人数/年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人以上	[1人]	短期 0人 長期 1人 (R1.10月~R2.8月)
	派遣人数/年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	40人以上	[42人]	短期 41人 (オンライン留学41人) 長期 1人 (R2.4月~R3.3月)
海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	—	[15件]	大学間 9件 部局間 5件 その他 1件
国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数/年	完成年度以降	15人	—	[延べ12人]	
	開催件数(累計)	最終年度	15件	—	[8件]	

国・地域別海外連携機関



英会話カフェ

小松市の国際交流員やALT (外国人指導助手) も参加し、学生や市民が英会話や異文化交流を楽しんだ。



ナレスワン大学 (タイ) との1日交流会 (11/24)

国際文化交流学部とナレスワン大学社会学部との交流協定の締結を記念して開催。双方の教員による講義のほか、学生によるプレゼンテーションと意見交換を行った。



評価 | B 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 新型コロナウイルスについて、各研究分野の視点で考察し、市民や地域社会へ知の還元を図るため、市民公開講座「ウィズ/アフターコロナ期をどう過ごすか」、市民公開フォーラム「Society5.0 時代の医療」、シーズ・ニーズマッチングシンポジウム「新型コロナウイルス-これからの世界と地域」を実施した。
- 小松市からの依頼を受け、新型コロナワクチン集団接種に看護学科の教員と学生が協力した。3月に行われた集団接種模擬訓練及び市民病院での接種において、経過観察や会場誘導を行った。
- 「こまつ市民大学」では、本学教員が講師を務め、ものづくりや健康、語学、国際情勢など、教員の研究分野に沿った講座を多数開講し、市民の学びをサポートした。
- 「シリコンバレーセミナー」では、オンラインで大学とシリコンバレーとをつなぎ、シリコンバレーのイノベーションを生み出す文化、世界の潮流などを学んだ。こうした連携・人材育成などの取組みが評価され、総務省「異能vation」プログラムの「異能vationネットワーク拠点」に採択された。

シリコンバレーセミナー

8～12月に全4回開催。シリコンバレーで活躍するエンジニアや起業家を講師に招き、イノベーションを生み出す文化やマインドについて学んだ。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎市民公開講座などリモート形式で地域へ知の還元を図る活動を展開できており、今後も大学として知見を広める活動を期待する。
- ◎コロナ禍におけるワクチン集団接種の協力など、専門的な立場からの地域貢献は非常に評価できる。
- ◎コロナ禍などの緊急時には特に地域との連携が求められる。引き続き、日頃からの地元企業や近隣医療機関との関係づくりを図りたい。
- ◎地域内での就職を後押しするためにも、官学連携での企業誘致など、就職の場を提供する取組を期待する。
- ◎リモート技術を活用し、産学連携によるシリコンバレーセミナーを実施したことは評価できる。



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R2年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R2目標値	実績	備考
市民公開講座 開講数（再掲）	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10／年	—	[12]	市民大学 12 資格取得支援講座 0 その他授業 0
	教員参画数 ／年	完成年度以降	20人／年	—	[延べ28人]	
市民による 施設利用度（再掲）	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	0人	新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、 学外者の利用を中止したため
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	211件	中央 52件 栗津 159件 末広 0件
連携施設・ 店舗等の数	累計数	最終年度	50件	—	[350件]	協力企業等 327団体 ランチ助成券 23店舗 学食ネット 1店舗 (ランチ助成券との重複1店舗)
学生の地域行事等 ボランティア件数・ 人数	件数／年	完成年度以降	20件	—	[1件]	
	参加人数／年	完成年度以降	100人	—	[22人]	



新型コロナワクチン 集団接種模擬訓練（3/10）

看護学科の学生5人、教員2人が参加。小松市医師会や消防本部などの関係者やボランティアらとともに本番さながらの訓練を実施した。

第3回 青松祭（10/17 オンライン開催）

「破天荒～新しい挑戦～」をテーマに、サークル紹介や学術講演、小松市内の観光スポット等の取材など、多彩な内容を学生が企画・制作した。



評価 B 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 大学院設置認可申請業務のため、担当事務職員（専任1名、併任2名）を選任し、修士・博士課程設置検討WGとともに準備を進め、3月17日、文部科学省に設置認可を申請した。
- 半年に一度、評価室ヒアリングを実施し、各セクションの業務の進捗状況等を確認し、組織全体としての適切な進捗管理を推進した。
- 全職員を対象とした各種研修会や初任者研修開催により、FD・SD活動を推進し、教職員の資質・能力の向上を図った。
- 大学院開学も見据え、中長期的な視点で職員の年齢構成や経験などのバランスを考慮し、教員選考試験・職員採用試験を実施した。
- 業務の効率化・合理化やコロナウイルス感染症対策の観点から、Microsoft365の活用（オンライン会議の実施・情報の一元管理など）や書類押印の見直しなどデジタル化の推進を図った。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【 評価 】

- ◎ 大学院の設置に係る取組は評価できる。今後も設置に係る準備を適切に進めることを期待する。
- ◎ Microsoft365の活用による情報の一元管理など、デジタルツールを用いた業務の効率化は評価できる。
- ◎ 業務効率は少しずつでも上げていくべきである。今後も積極的な取組を図りたい。
- ◎ 今後は卒業生との連携も重要となる。第一期の卒業生を見据え、OB会発足に向けて準備をすすめる必要がある。

数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R2年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R2目標値	実績	備考
業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	—	[33件]	
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数/年	毎年度	1件以上	1件以上	7件	FD 2件 SD 5件

評価

A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- オープンキャンパスの開催や高校訪問、進学相談会への参加など直接的な学生募集活動のほか、ラジオCMやWeb広告の掲載、DMの発送など幅広いメディアを使って広報活動を行い、受験生の獲得及び定員の充足を図り、安定した学生納付金の確保につなげた。
- 基金への寄附受入のPRのため、大学HP上に基金の活用事例（学生の声）を紹介するページを設けた。
- 科学研究費及びその他の外部資金獲得の実績は完成年度以降の目標値を上回る結果となった。
(科学研究費採択数：36件、その他外部資金獲得数：17件)

大学案内動画「公立小松大学という選択」
各学科の学生が大学生活について語る。(5分41秒)



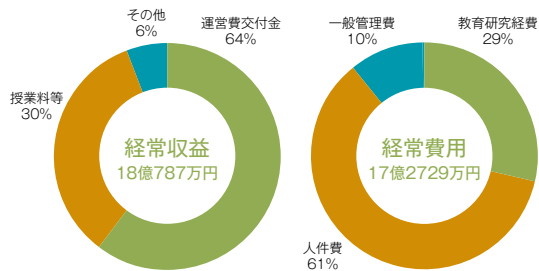
評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 受験生のニーズに沿った効果的な入試広報で高い志願者倍率を維持している点は評価できる。
- ◎ コロナ禍によって入学志願者の志望傾向が変わったことも予想される。今後も注意深く動向を見守る必要がある。
- ◎ 特に、北陸三県の高校生に対しては積極的な入試広報を期待する。
- ◎ コロナ禍における予算編成・執行は難しさもあるが、大学の活動を停滞させないよう柔軟な対応を図られたい。

法人の経営状況



※ [] は、達成年度前であるが、R2年度実績として数値把握しているもの

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R2目標値	実績	備考
自己収入額	自己収入額／年	毎年度 (完成年度以降)	7億円以上	—	[6.0億円]	
科学研究費 補助金等獲得 状況（再掲）	科学研究費 補助金 採択件数／年	完成年度以降	15件	—	[36件]	
	その他外部 研究資金 採択件数／年	完成年度以降	5件	—	[17件]	

評価 | A 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 前年の業務実績について法人評価委員会による評価を受け、その後、指摘やアドバイスは学内の審議会や委員会を通じて全職員へ周知し、業務改善や新たな取組みの実施に努めた。
- 自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの業務の把握、進捗管理を定期的に実施し、円滑な業務執行につなげた。
- 広報誌「Tachyon」の発行、大学HPの更新のほか、テレビやラジオ、新聞、市の広報誌などさまざまな媒体を活用し、大学の取組や学生の課外活動、教員の研究などについて積極的にPRした。大学HPにおいては、新規コンテンツ「大学生活がよく分かる 動画と写真でみる公立小松大学」を開設し、サークル活動や学生生活カレンダー、学食、PR動画等を紹介した。

広報学生委員の活動

新生インタビューや、サークル取材、新生対象市内ツアーの企画など、学生目線による学内情報の発信を行った。



評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎いざという時に学問的根拠のもと対応を提示することができるのが大学の強みである。地域で大学を抱えていることの意義について、市民に対して積極的に広報することが望ましい。
- ◎学生の力を利用した大学PRを期待する。

ホームページ

「大学生活がよくわかる 動画と写真でみる公立小松大学」

大学紹介動画や360度カメラで撮影した3キャンパスの画像、学食、サークル活動などを紹介。



評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 粟津キャンパスと末広キャンパスA棟について、キャンパス老朽度調査を実施し、個別施設計画（インフラの長寿命化計画）を策定した。
- 「石川県バリアフリー社会の推進に関する条例」に基づき、粟津キャンパスと末広キャンパスに優先者駐車場を設置した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 施設及び設備の整備改修などを行うために、施設整備計画の策定と大学院設置に向け研究棟の設置準備をすすめたことは評価できる。今後は計画に基づき整備改修を行うとともに、設備の整備改修計画の策定を図られたい。

評価

A

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 危機管理委員会や安全衛生委員会を定期的で開催し、職員・学生のコロナウイルス感染症に対する危機意識を組織的に高めるとともに、大学として感染症対策を実施した。

- 年5回以上の年休取得義務化を受け、定期的に職員へ有給休暇の取得状況を通知し、年休の取得促進を図った。
- 令和元年度の決算・業務について監事監査を実施し、法人業務は適正に実施していると認められた。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 学生の経済支援等も含め、今後もコロナウイルスへの対策を図られたい。
- ◎ 在宅勤務制度の運用には専用のシステム構築が欠かせない。十分な検討を図られたい。
- ◎ 安否確認システム「Safetylink24」について、有効に利用されるよう、日頃の使用方法について検討を図られたい。

学内における新型コロナウイルス感染症に係る対応（再掲含む）

- * オンライン授業の実施
- * 講義室の環境改善（収容人数の半減化・換気の徹底・オンラインの併用など）
- * 空気清浄機（計10台）・オゾン発生器（計100台）・サーモグラフィ体温測定器（計4台）の設置
- * オンライン会議の促進
- * 職員による日々の施設内消毒
- * 在宅勤務制度の運用
- * さまざまな媒体（館内掲示・メール・HP・ポータル・館内放送など）によるコロナウイルスの情報提供・注意喚起
- * 不安を抱える学生に対するメンタルケア（学生相談など）
- * 大学独自の無利子の貸付金制度の創設
- * 小松市学習エール応援金（全学生対象）の申請受付